

江戸前期、寛文12年の銘



寛文12年（1672年）に建造された県内最古の眼鏡橋
—佐賀市伊勢町の大覚寺

県内最古の眼鏡橋確認

佐賀市伊勢町の大覚寺の参道橋が、県内で最古となる石造の眼鏡橋と確認された。銘文には江戸時代前期の寛文十二（一六七二）年と刻まれており、これまで最も古いとされていた橋から二十八年さかのぼる。長崎市の中島川で眼鏡橋が次々に造られた時期と重なることから、県内の眼鏡橋のルーツを探る上で貴重な発見となった。

佐賀市・大覚寺

全国でも十指に

橋は宮崎県の石橋研究家、贅田岳和さんが発見している文様から、小城の三好の参道橋。橋の上面と推測される。これがコンクリートで舗装され、四十五度程度拡幅されているものの、欄干や欄干から伸びている親柱は当時の姿で残っている。

眼鏡橋は見つかったおられ、地盤が軟弱なため造られなかったという通説を覆すものとなった。これまで旧佐賀市内で

た、銘文から眼鏡橋が江戸時代に「輪江」と呼ばれていたことが新たに分かった。

県内の眼鏡橋に詳しい石橋研究家の世戸慎吾さん（心）小城市は「全国的にみても琉球王国のものを除けば十指に入るほどの古さで、歴史的価値は極めて高い。長崎の眼鏡橋との関係など、今後の研究の可能性が広がった」と話す。（江島）

国土交通省は五日、汚防止やファッション性から若者を中心に広がっている自動車のナンバードット用色付きカバールの装着を禁止する方針を固めた。ひき逃げ事件の際などにナンバーが読み取りづらいといった問題が生じているためだ。二〇〇八年初めに討会を設置して規制対象詰め、関係法令を改正し、い考えで、〇九年にも禁